

栗原市病院事業経営健全化計画

平成 28 年度

— 重点取組事項等に対する点検・評価報告書 —

栗原市立病院経営評価委員会

【 所管：栗原市病院事業 医療局医療管理課 】

目 次

平成28年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

1 栗原中央病院の取組みに対する意見等	-----	1～2
2 若柳病院の取組みに対する意見等	-----	2
3 栗駒病院の取組みに対する意見等	-----	2
4 総括	-----	3
資料1 各委員からの意見、要望、提言	-----	4～5
資料2 平成28年度重点取組事項に係る自己点検・評価		
■ 栗原中央病院	-----	6～7
■ 若柳病院	-----	8～9
■ 栗駒病院	-----	10～11
《自己点検・評価の記載項目》		
1 病院の果たすべき役割（経営方針）		
2 取組実績に対する点検		
(1) 医療機能確保の視点		
(2) 財務の視点		
(3) 業務プロセスの視点		
(4) 学習と成長の視点		
3 収支計画及び決算（収益的収支）		
4 主な経営指標及び実績		
5 自己評価（病院総括）		
〔添付資料〕		
別紙1 市立3病院収支計画及び決算	-----	12～14
別紙2 市立3病院経営指標	-----	15～17
資料3 栗原市立病院経営評価委員会委員	-----	18
資料4 栗原市立病院経営評価委員会設置要綱	-----	19

栗原市病院事業 第三次経営健全化計画
平成28年度重点取組事項等に対する点検・評価報告書

栗原市病院事業から提出された「平成28年度重点取組事項等に係る自己点検・評価」及び「決算関係資料」をもとに、第三次経営健全化計画の初年度にあたっていることを踏まえ、市立3病院の取組実績について、総体的に点検を行った結果は、次のとおりである。

平成29年10月11日

栗原市立病院経営評価委員会
委員長 平川 秀紀

1 栗原中央病院の取り組みに対する意見等

栗原地域の中核病院として、急性期医療を中心に小児から高齢者まで、幅広い年代層への医療を提供し、病院事業全体の6割の病床を保有していることから、経営面においても、当院の収支の影響は全体の収支に大きく反映される。

平成28年度の医師数は、前年度と同じく25人体制の中で推移したものの、病床利用率の目標を70%以上として設定し、ベットコントロール会議等で病床管理を行った成果として、一般病床の利用率が2.1ポイント向上したこと、地域包括ケア病棟の通年運用や診療単価の向上により50,929千円の増収となったことが挙げられる。病床全体の利用率は、結果的には63.1%で前年度と同じであったことから、今後も引き続き、70%以上を目標とし、さらに今後の診療報酬改定の動向を見極めながら、利用率が低下している療養病床の運用について、市立3病院の連携を含め検討する必要がある。

経費削減対策については、施設管理費などの委託契約の見直しや、診療材料・医薬品のベンチマークを導入したことにより、約3千800万円を削減したことは評価に値する。

また、地域医療機関との連携強化については、在宅療養後方支援病院として地域の診療所との連携を図っており、緊急時に入院できる体制をとっていることは、在宅患者の安心にもつながっている。

平成29年4月から循環器内科を本格的に稼働し、心筋梗塞など循環器系疾患の患者受け入れが始まった。さらには、平成31年4月から県立循環器・呼吸器病センターの機能移管により、循環器系・呼吸器系が強化されることになると思われるが、現行病床の運用を引き続き検討しながら、病床利用率70%以上を最低目標に設定し、地域から期待され

る病院として、また、地域医療を継続させるため、中核病院としてのリーダーシップを発揮してほしい。

2 若柳病院の取り組みに対する意見等

常勤医師5人体制の中、病床利用率は計画値を2.5ポイント上回る77.5%となり、入院、外来それぞれの診療単価も向上し、経常収支比率は計画値を4.2ポイント上回り103.6%の黒字となった。

外来診療単価が向上した主な要因は、在宅時医学総合管理料を新設したことによる増収であるが、診療報酬点数の改正も予想されるなど、今後も増収につながるとは限らない。

また、今後のさらなる収入増加対策としては、診療報酬点数を考慮し、地域包括ケア病床の運用を検討する必要がある。

地域医療機関との連携強化については、地域医療連携室が平成29年4月から稼働しており、今後益々、病病連携・病診連携が深化し、患者の希望に沿ったスムーズな入院支援が期待できる。

平成28年度は「本当によく頑張った」という表現に尽きるが、継続した長年の課題である常勤医師の高齢化や医師不足は解消されておらず、地域密着型慢性期医療の基幹病院として継続するためには、この課題の解消が必要不可欠となる。

今後も、経営の健全化を推進しながら、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、地域住民の期待に応え続けてほしい。

3 栗駒病院の取り組みに対する意見等

長年にわたり、経常収支比率は90%以上を維持してきたが、当年度は87.6%、当年度純損失は114,256千円となり、前年度比で50,345千円の損失増となった。

病床数75床の病院には、多くの医療スタッフを配置することはできないことから、医療スタッフの欠員は、経営に大きく影響を及ぼすこととなるが、今後の人員体制については、市立病院間の連携により対応することも必要である。

すべての経営指標において、右肩下がりの状況が続いている。課題として若柳病院と同様に、常勤医師の高齢化や医師不足が挙げられるが、医師招へいができれば患者が増えることを期待できるのか、また、地域で唯一の入院施設を有する公的医療機関として、入院機能は維持しなければならないと思うが、何年後にどのような病床運営をするのかなど、ダウンサイジングも含めて本格的な検討を行わなければいけない時期に来ている。

4 総括

第二次経営健全化計画は、平成27年度をもって計画期間が終了し、平成28年度から平成32年度までを計画期間とした第三次経営健全化計画を平成29年2月に策定した。

平成28年度は第三次経営健全化計画の初年度となっており、栗原中央病院と若柳病院の2病院が経常収支比率の計画値を上回ることができた。

市立3病院は、課題である常勤医師不足を解消することは非常に難しい状況下であり、さらに平成26年度の公営企業会計制度の見直しや消費税の増税による費用の増加などの影響を受け、経営面において非常に厳しい運営を強いられながら地域医療を継続している。

厚生労働省は、平成37年（2025年）に、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎えることから、「国民一人一人が、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、その地域で人生の最期を迎えることができる環境を整備していくことは喫緊の課題である」としている。

さらに、「人口構造が変化していく中で、医療保険制度及び介護保険制度については、給付と負担のバランスを図りつつ、両制度の持続可能性を確保していくことが重要である」としていることから、今後自治体の介護保険は負担増となることが見込まれ、現在の一般会計繰入金を期待し続けることは難しいと考える。

このことから、市立3病院の病床数495床が本当に必要であるかを、本格的に議論をする時期に来ている。第三次経営健全化計画において、全体最適なダウンサイジングを明記はしなかったものの、栗原地域の医療需要を検証するとともに、市民が安心して暮らせるための地域医療について、中期的な計画として、今後どのように維持しなければいけないのか方向付けをすべきである。

各委員からの意見、要望、提言

○ 少子高齢化・人口減という問題があり、地域医療構想や公立病院改革などで様々な方向性が示されている。さらに、来年度は診療報酬のマイナス改定も目に見えてきており、医療経営は非常に難しいものであるが、医療経営が失敗すると地域が減んでしまう。市立病院の役割は非常に大きいものがある。

○ 率直な感想は、結構がんばっているという評価であるが、国において社会保障関係費を含めた医療・介護費の大幅な削減が議論されている状況下において、地方自治体のふところ具合が医療・介護の意思を決めていくのではないかと危惧している。今後は、できる限り拡大よりも小さくまとまっていくことが必要と捉えている。

○ 医療需要が頭打ちになっている傾向の中で、市立3病院が努力されていることが理解できる。

栗原中央病院は、各種の加算料で約2千8百万円の増収や施設管理等の委託の見直しで3千万円の削減などが評価できる。しかし、病床利用率については63.1%と昨年度と同じ実績であり計画値を下回っている。7対1の一般病床については、循環器内科を開設した点では有利だと思われるが、かなりダウンサイジングしなければ重症看護必要度の25%は厳しいと感じる。

若柳病院は、病床利用率の向上により前年度比で約1億5千万円の実質の黒字となっており、現場の努力の成果と言える。

栗駒病院は、医師が少ない中で、頑張れるところまで頑張ったという結果が見てとれるが、内科医師を招へいできたとしても、患者の増加や増収を本当に期待できるのかといった懸念がある。

○ 栗原中央病院は、在宅療養後方支援病院として在宅療養を提供している医療機関と連携していることは、医療機関としても在宅患者としても非常に心強い。問題は、病床利用率が63.1%と低いことであり、この改善を考えていかなければ、今後も同じように推移することを危惧している。

若柳病院は、在宅診療で収入増がみられるが、介護される人も介護する人も高齢になると在宅から施設入所へと変わり、在宅患者が増えないという現象が出てくると予測される。

栗駒病院は、医師不足の中では止むを得ない経営結果であるが、人口減少も著しいため、何年か後にどうすべきか、介護を含めた運営形態を考える必要があると思われる。

- 栗原中央病院は、医療資源の投入量と在院期間の関係など、各々の病棟に在院する患者像を分析し、病床機能の再編と効率的な病床運営を行う必要があり、新入院患者の増加が見込めない場合は、看護単位での稼働病床の削減が得策と思われる。また、費用については、同規模病院と比較し特に経費の割合が高いので、なお一層の削減努力を期待したい。

若柳病院は、黒字決算の成功体験を全職員で共有し、今後も経営努力を継続されることを期待する。

栗駒病院は、医師不足によって厳しい経営を強いられたが、何としても常勤医師の招へいに努力され地域医療を支えていただきたい。

- 栗原中央病院は、病床利用率が平成25年度以降70%を下回る状況が続いているが、平成28年度の一般病床利用率は2ポイントの改善があり、さらに経常収支比率の大幅な改善がみられる。このような改善の芽を次年度以降に継続して育てていただきたい。

若柳病院は、様々な取り組みにより、常勤医師1人減の中で経常収支比率が100%を超えたことは十分評価できる。

栗駒病院は、医師不足がすべての指標に影響を及ぼしている。改めてぎりぎりの体制の中で地域医療を支えていることを再認識した。大変厳しい状況ではあるが、引き続き地域に密着した取り組みを期待したい。

- 厳しい環境にあって、粘り強く取り組んでいることは非常に評価できる。

栗原中央病院は、平成28年度は昨年度より若干であるが医業収益がアップしている。当年度経常損益も約2億2千万円の損失の減少があり、経常収支比率も4.5ポイント増加しているが、実質的には病床利用率を計画値まで上げる努力が必要である。経営数値の悪化要因は、患者の他院への流出と読み取れる。今後も損益分岐点を目標に経営していただきたい。

若柳病院は、経常収支比率が100%を超えている。経常収支比率は減価償却費を入れた後での数値であり、キャッシュ・フローベースでは約1億8千万円を計上しており申し分ない。厳しい環境にありながら、このような結果を出されたことは職員の努力と評価できる。

栗駒病院は、自己評価に記載のとおりマイナスの外的要因の結果である。

- 経営面において、栗駒病院では地域包括ケア病床の維持に努めているが、若柳病院でも地域包括ケア病棟に切り替えた方が、ますます財務的には有利になると思われる。

平成28年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗原中央病院
-----	--------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域の中核病院として、高度医療や二次救急医療の役割を担い、急性期医療を中心に小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療の提供、また、栗原地域の災害時における災害拠点病院としての機能、さらに、基幹型臨床研修指定病院としての役割を担っています。

また、市民が必要な時に“安全”で“安心”できる医療を提供できるように努めるとともに、市内一次医療機関や近隣医療機関との病病連携・病診連携を図り、市民に質の高い適切な医療を安定的に提供します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養後方支援病院(H26.7) H28年度末登録患者数102人 H28在宅患者緊急入院診療加算算定患者数16人 地域連携のつどい「よらいん」 4回 451人 各種研修会・講演会4回 217人 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の当院に対するニーズの把握及び地域への情報発信（広報誌及び出前講座等の充実）
医療スタッフの招へい	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医師の招へいに努めたが、H28年度の常勤医は25名で増減なし(研修医は2名増) 看護師等看護職員は8名、放射線技師、理学療法士等コメディカルで8名の増員となった(非常勤含む)。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な医師の招へい活動 将来を見据えた中長期的な職員の採用・育成計画の策定
急性期医療及び回復期医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> H29.4月からの循環器内科開設に向けた医療機器整備 地域包括ケア病棟におけるレスパイト入院の受入 15人 	<ul style="list-style-type: none"> H29.4月より循環器内科を開設し、心筋梗塞等循環器系疾患の救急患者を受け入れると共に、心臓血管リハビリテーションを開始

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病棟の開設(H27.9) 各種指導管理料増収 28,449千円 紹介患者増加のための市内外医療機関への訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介患者の受入やベッドコントロール会議の活用による利用率向上 指導料等算定状況チェックの強化 定期的な他医療機関訪問実施
経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理費等委託契約の見直しによる経費削減 △30,933千円 診療材料・医薬品ベンチマーク導入による削減 △6,765千円 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度以降も継続して経費削減に取り組む

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療の標準化とチーム医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパスの推進 (利用率 H27:22.9% H28:22.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパス利用率 30%以上 (電子カルテへの登録整備)

	<ul style="list-style-type: none"> ・NSTに歯科医を招へいし活動 ・糖尿病チームを立ち上げ活動 	
医療の質と安全の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療の質の評価・公表等推進事業」(全国自治体病院協議会)への参加 ・医療安全管理委員会等院内各種委員会活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックデータの分析・活用による医療の質の向上 ・計画的、体系的な人材育成

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の充実、専門医等の資格取得やスキルアップの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的、体系的な人材育成

3 収支計画及び決算 (収益的収支)

(単位：千円)

区分	H26年度		H27年度		H28年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	4,213,866	3,757,794	4,275,676	3,763,186	3,892,148	3,763,770
医業外収益	575,881	675,890	572,422	674,342	831,757	828,436
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	4,789,747	4,433,684	4,848,098	4,437,528	4,723,905	4,592,206
医業費用	4,499,192	4,518,987	4,526,098	4,522,703	4,658,006	4,447,345
医業外費用	232,996	285,983	224,774	268,716	297,703	284,353
特別損失	1,200	134,977	1,200	492	10,463	10,463
合 計	4,733,388	4,939,947	4,752,072	4,791,911	4,966,172	4,742,161
当年度経常損益	57,559	△371,286	97,226	△353,891	△231,804	△139,492
当年度純損益	56,359	△506,263	96,026	△354,383	△242,267	△149,955

4 主な経営指標及び実績

(単位：%)

	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	
経常収支比率	100.3	92.4	101.1	92.3	102.2	92.6	95.3	97.1	
病床利用率	75.0	66.9	78.3	65.1	80.0	63.1	65.7	63.1	
内 訳	一般病床	74.2	65.9	78.1	64.4	80.0	64.2	67.2	66.3
	療養病床	80.0	72.9	80.0	69.3	80.0	57.4	58.0	47.1
職員給与費比率	50.4	54.9	50.5	56.3	50.1	56.5	56.2	56.1	
医業収支比率	92.4	84.8	93.4	83.2	94.5	83.2	83.6	84.6	

5 自己評価 (病院総括)

平成28年度は、病床利用率70%以上を目標として職員一丸となって努力してきたが、病床利用率は前年度と同じ63.1%となった。入院収益は地域包括ケア病棟の通年運用や診療単価の向上により50,929千円の増収となった。外来収益は患者数減に加え肝炎治療薬を院外処方としたことなどにより55,489千円の減収となった。支出面では、年度末に更新した血管撮影装置の影響で雑支出(控除対象外消費税)や固定資産除却費が増加したが、薬品費や委託料の削減ができたため、当年度純損失は149,955千円となり、前年度比で204,428千円の大幅な改善となった。

平成28年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	若柳病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

「生活医療圏」の中での医療の提供、そのための「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、中核病院・地域診療所等との連携を図りながら、初期診療における総合的な判断と診療を行い、救急については一次救急はもとより、可能な限りの二次救急を行い、地域住民に信頼される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	地域医療連携室の立ち上げの準備に取り組み、平成29年4月から稼動を開始した。	地域医療連携室の稼動により、基幹病院からの患者の受入と希望に添ったスムーズな退院支援への取り組みを図る。
医療スタッフの招へい	平成28年3月に内科医師1人が退職し、常勤医師5人体制となったことで、医師充足率は80%程度となり、医師不足の状況が続いていたが、平成29年4月から内科医師1人増員となった。	常勤医師の高齢化が進行していることから、地域医療を担う若手医師の招へいによる、医師充足率100%の達成が課題である。

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療管理加算の増収12,693千円 人間ドックや健康診断等の受入日数増加による増収1,832千円 薬剤管理指導や栄養指導の件数の増による増収604千円 在宅時医学総合管理料の新設による増収25,998千円 	大学からの応援医師による日当直は全体半分以上を占めており、また人間ドックや健康診断については、医師数に左右されることがあるため、今後の医師招へいが重要となる。
経費削減・抑制対策	節電・節水による光熱水費の減(年間564千円の減)	開院から12年目を迎え長期的に使用している医療機器の更新や施設設備の計画修繕が必要となっている。

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療研修受入施設として研修内容の充実を図る	平成28年度の研修受入実績 <ul style="list-style-type: none"> 栗原中央病院研修医 2人 仙台医療センター研修医 3人 リハビリテーション科による研修学生 15人 中高生による看護師・栄養士体験学習 19人 	訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、在宅患者訪問褥瘡管理などの研修内容の充実を図り、仙台医療センターや栗原中央病院等の研修医の受け入れを行い、また、専門学校の実習生徒、中高生の体験学習も継続する。

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上（職員のレベルアップ）を図る。	医師学会出席延べ 25人 看護師研修会延べ 250人 ファーストレベル研修 1人 コメディカル研修会延べ 16人 院内研修会出席延べ 946人	今後も計画的に研修会に参加することにより、職員の専門性の向上とレベルアップを図る

3 収支計画及び決算（収益的収支）

（単位：千円）

区分	H26 年度		H27 年度		H28 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,561,714	1,338,228	1,561,714	1,437,764	1,512,744	1,527,712
医業外収益	169,117	191,158	168,634	197,226	284,636	286,350
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	1,730,831	1,529,386	1,730,348	1,634,990	1,797,380	1,814,062
医業費用	1,629,920	1,576,017	1,628,511	1,614,313	1,695,687	1,645,023
医業外費用	99,409	108,405	96,870	110,343	111,821	105,540
特別損失	457	53,640	457	456	780	1,213
合 計	1,729,786	1,738,062	1,725,838	1,725,112	1,808,288	1,751,776
当年度経常損益	1,502	△155,036	4,967	△89,666	△10,128	63,499
当年度純損益	1,045	△208,676	4,510	△90,122	△10,908	62,286

4 主な経営指標及び実績

（単位：%）

	H25 年度		H26 年度		H27 年度		H28 年度		
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	
経常収支比率	100.1	95.4	100.1	90.8	100.3	94.8	99.4	103.6	
病床利用率	85.2	77.0	85.2	71.3	85.2	74.6	75.0	77.5	
内訳	一般病床	83.3	75.5	83.3	67.1	83.3	74.9	71.1	74.6
	療養病床	90.7	81.6	90.7	83.9	90.7	73.5	86.7	86.1
職員給与費比率	52.0	56.8	52.0	60.7	52.0	57.3	55.8	54.6	
医業収支比率	95.8	90.1	95.8	84.9	95.9	89.1	89.2	92.9	

5 自己評価（病院総括）

平成 28 年度は常勤医師 5 人となり、医師不足の状況が厳しさを増す中での診療体制となったが、入院延患者数は前年度比 1,185 人の増で病床利用率は計画より 2.5 ポイント上回る 77.5%となった。また、入院診療単価も前年度比 1,139 円増の 27,847 円となった。外来は、患者数が若干減少したが、外来診療単価は在宅時医学総合管理料等の新設により前年度比 619 円増の 9,717 円となった。

医業収益は計画に対し 14,968 千円の増収、医業費用も計画に対し 50,664 千円の減となったことから、当年度純損益は 63,499 千円の純利益を計上する結果となり、前年度比 152,408 千円の大幅な改善となった。

平成28年度重点取組事項に係る自己点検・評価

病院名	栗駒病院
-----	------

1 病院の果たすべき役割（経営方針）

地域に密着した「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、近隣の医療機関・保健福祉施設等との連携と機能分担を図り、良質な医療を提供し、地域住民の健康を守ることに全力を尽くし、信頼される病院を目指します。

また、「和顔愛語」「恕」の精神で多くの住民から愛される病院を目指します。

2 取組実績に対する点検

(1) 医療機能確保の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
地域医療機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の介護施設との連携強化 退院後に介護施設へ入所した患者の割合 H27：31.5% H28：33.9% 	地域の人口が減少している一方で介護施設の入所者は増加しており、介護施設入所者の一時入院にも対応していく。
医療スタッフの招へい	長年勤務していた外科医師が3月末で退職したが、平成29年4月から外科医師を招へいし補充	退職者の補充はできたものの内科の常勤医師の招へいが課題である。
医師の過重労働の軽減	栗駒地区で唯一の入院施設として開業医から月2回の当直の協力をいただいている。	今後、協力体制を拡充していく。

(2) 財務の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
収入増加・確保対策	<ul style="list-style-type: none"> 一般病床と介護病床を利用したベッドコントロールについては、地域包括ケア病床を維持できなくなったため、有効なコントロールができなかった。 CT装置（16列）の更新による断層撮影診断料の算定 	地域包括ケア病床を最大限に利用し、在院日数の減少に努力し、10対1入院基本料算定を維持する。また、平成29年度以降は病床機能に応じたベッドコントロールを行い、利用率の向上に努める。
経費削減・抑制対策	<ul style="list-style-type: none"> LED照明への切替による節電 本年度から、故障した蛍光灯は全てLED照明に切替し、電気料の削減を行った。 	照明時間が長い蛍光灯を計画的にLED照明に切替し、節電を図る。

(3) 業務プロセスの視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
医療安全の充実	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント委員会 12回 リスクカンファレンス 31回 医療機器安全管理委員会 12回 院内研修 46回、延べ 1,012人 院外研修 56回、延べ 147人 	今後も各種研修会の伝達研修や院内研修の充実を図り、医療事故防止に努める。

(4) 学習と成長の視点

目 標	取組実績	今後の課題・取組等
専門性の向上 各種研修の充実	自治体病院学会や国保診療施設学会での研究発表を行った。 院内においても医療機器使用研修会、院内感染対策研修会を行った。	今後も院内研修の充実を図るとともに、積極的に院外研修、学会発表に参加し、専門性の向上を図る。

3 収支計画及び決算 (収益的収支)

(単位: 千円)

区分	H26 年度		H27 年度		H28 年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	815,259	702,252	815,259	673,195	655,324	595,098
医業外収益	167,028	198,845	167,429	193,913	211,931	213,165
特別利益	0	0	0	0	0	0
合 計	982,287	901,097	982,688	867,108	867,255	808,263
医業費用	909,601	901,201	901,987	888,398	918,631	878,613
医業外費用	35,799	49,881	35,117	42,224	46,662	43,562
特別損失	67	29,728	67	397	850	344
合 計	945,467	980,810	937,171	931,019	966,143	922,519
当年度経常損益	36,887	△49,985	45,584	△63,514	△98,038	△113,912
当年度純損益	36,820	△79,713	45,517	△63,911	△98,888	△114,256

4 主な経営指標及び実績

(単位: %)

	H25 年度		H26 年度		H27 年度		H28 年度		
	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	計画値	実績	
経常収支比率	103.3	99.5	103.9	94.7	104.9	93.2	89.8	87.6	
病床利用率	86.1	80.4	86.1	76.6	86.1	73.7	70.7	63.2	
内 訳	一般病床	88.4	79.6	88.4	71.2	88.4	72.2	68.9	58.0
	療養病床	82.7	81.5	82.7	84.7	82.7	75.9	73.3	70.9
職員給与費比率	61.8	61.2	61.8	69.4	61.8	71.3	77.4	81.0	
医業収支比率	89.1	86.1	89.6	77.9	90.4	75.8	71.3	67.7	

5 自己評価 (病院総括)

平成 28 年度の延患者数は前年度と比較すると入院で 2,936 人の減、外来で 1,913 人の減という結果になった。

患者数の減少により、医業収益は計画額と比較して 60,226 千円の減収、当年度純損失は 114,256 千円となり、前年度比 50,345 千円の損失増となった。損失増の主な要因は、常勤医師 3 人体制のため、患者数を抑えた診療体制が続いたことなどによるものである。また、10 年間勤務した医師が 3 月末をもって退職したことも、今後の患者数に影響を与える可能性もあるため、早急に内科医師 1 人の招へいが必要と思われる。地域住民が減少する中、地域に密着し信頼される医療機関として、また、地域で唯一の入院施設を持つ医療機関として、他の医療機関や介護施設等と連携し、信頼される地域医療を担っていきたい。

別紙1 市立3病院収支計画及び決算

1 栗原中央病院

(単位：千円)

区分	年度	H26年度		H27年度		H28年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1	医業収益	4,213,866	3,757,794	4,275,676	3,763,186	3,892,148	3,763,770
	(1) 入院収益	2,941,403	2,469,924	3,003,213	2,490,014	2,625,387	2,540,943
	(2) 外来収益	912,870	972,308	912,870	972,773	954,990	917,284
	(3) その他医業収益	155,070	152,166	155,070	141,861	147,575	141,347
	(4) 他会計負担金	204,523	163,396	204,523	158,538	164,196	164,196
2	医業費用	4,499,192	4,518,987	4,526,098	4,522,703	4,658,006	4,447,345
	(1) 給与費	2,126,101	2,114,816	2,141,601	2,125,060	2,187,895	2,111,234
	(2) 材料費	650,086	659,300	661,459	686,815	688,630	633,003
	(3) 経費	1,319,110	1,319,635	1,319,110	1,277,168	1,354,417	1,277,949
	(4) 減価償却費	386,716	402,567	386,749	416,848	398,603	398,600
	(5) 資産減耗費	6,990	9,560	6,990	3,621	13,344	13,316
	(6) 研究研修費	10,189	13,109	10,189	13,191	15,117	13,243
	医業損失／医業利益	△285,326	△761,193	△250,422	△759,517	△765,858	△683,575
3	医業外収益	575,881	675,890	572,422	674,342	831,757	828,436
	(1) 受取利息配当金	1,089	246	1,089	182	4,306	4,387
	(2) 他会計補助金	181,163	240,564	181,163	248,820	408,577	408,577
	(3) 補助金	27,720	34,907	26,681	32,775	26,282	26,195
	(4) 負担金交付金	325,161	280,683	322,741	271,769	280,796	280,797
	(5) 長期前受金戻入	0	82,660	0	82,878	79,252	79,252
	(6) その他医業外収益	40,748	36,830	40,748	37,918	32,544	29,228
	(7) 雑収益	0	0	0	0	0	0
4	医業外費用	232,996	285,983	224,774	268,716	297,703	284,353
	(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	156,825	157,849	148,603	149,738	141,493	141,382
	(2) 繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前払消費税償却	0	0	0	0	0	0
	(4) 雑支出	76,171	128,134	76,171	118,978	156,210	142,971
	経常利益／経常損失	57,559	△371,286	97,226	△353,891	△231,804	△139,492
5	特別利益	0	0	0	0	0	0
	(1) その他特別利益	0	0	0	0	0	0
6	特別損失	1,200	134,977	1,200	492	10,463	10,463
	(1) 過年度損益修正損	1,000	133,745	1,000	451	600	920
	(2) その他特別損失	200	1,232	200	41	9,863	9,543
	(3) 臨時損失	0	0	0	0	0	0
	当年度純利益／純損失	56,359	△506,263	96,026	△354,383	△242,267	△149,955
	前年度繰越利益剰余金／欠損金	△5,371,828	△5,664,247	△5,315,469	△5,556,006	△5,910,389	△5,910,389
	その他未処分利益剰余金変動額		613,354				
	当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金	△5,315,469	△5,557,156	△5,219,443	△5,910,389	△6,152,656	△6,060,344

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

2 若柳病院

(単位：千円)

区分	年度	H26年度		H27年度		H28年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1	医業収益	1,561,714	1,338,228	1,561,714	1,437,764	1,512,744	1,527,712
	(1) 入院収益	952,157	795,629	952,157	874,570	948,864	944,876
	(2) 外来収益	458,304	430,196	458,304	442,514	458,795	463,803
	(3) その他医業収益	55,262	37,250	55,262	55,264	39,461	53,409
	(4) 他会計負担金	95,991	75,153	95,991	65,416	65,624	65,624
2	医業費用	1,629,920	1,576,017	1,628,511	1,614,313	1,695,687	1,645,023
	(1) 給与費	811,596	812,205	811,596	823,385	843,605	833,478
	(2) 材料費	250,000	172,994	250,000	191,875	214,139	195,133
	(3) 経費	452,943	475,531	450,543	479,615	515,536	494,108
	(4) 減価償却費	112,221	109,811	113,212	112,701	118,059	118,056
	(5) 資産減耗費	1,619	3,283	1,619	4,834	1,612	1,782
	(6) 研究研修費	1,541	2,193	1,541	1,903	2,736	2,466
	医業損失／医業利益	△68,206	△237,789	△66,797	△176,549	△182,943	△117,311
3	医業外収益	169,117	191,158	168,634	197,226	284,636	286,350
	(1) 受取利息配当金	54	118	54	109	1,754	1,706
	(2) 他会計補助金	35,289	75,100	35,289	74,235	132,267	132,267
	(3) 補助金	8,553	3,032	8,553	1,533	1,228	1,361
	(4) 負担金交付金	122,366	106,907	121,883	114,398	144,079	144,078
	(5) 長期前受金戻入	0	3,528	0	3,817	3,211	3,323
	(6) その他医業外収益	2,855	2,473	2,855	3,134	2,097	3,615
	(7) 雑収益	0	0	0	0	0	0
4	医業外費用	99,409	108,405	96,870	110,343	111,821	105,540
	(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	61,758	61,728	59,219	59,232	56,961	56,741
	(2) 繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前払消費税償却	8,251	8,251	8,251	8,251	8,251	8,251
	(4) 雑支出	29,400	38,426	29,400	42,860	46,609	40,548
	経常利益／経常損失	1,502	△155,036	4,967	△89,666	△10,128	63,499
5	特別利益	0	0	0	0	0	0
	(1) その他特別利益	0	0	0	0	0	0
6	特別損失	457	53,640	457	456	780	1,213
	(1) 過年度損益修正損	451	53,640	451	456	680	1,213
	(2) その他特別損失	6	0	6	0	100	0
	(3) 臨時損失	0	0	0	0	0	0
	当年度純利益／純損失	1,045	△208,676	4,510	△90,122	△10,908	62,286
	前年度繰越利益剰余金／欠損金	△123,174	△148,811	△122,129	△346,563	△436,685	△436,685
	その他未処分利益剰余金変動額		10,924				
	当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金	△122,129	△346,563	△117,619	△436,685	△447,593	△374,399

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

3 栗駒病院

(単位：千円)

区分	年度	H26年度		H27年度		H28年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
1	医業収益	815,259	702,252	815,259	673,195	655,324	595,098
	(1) 入院収益	499,378	435,192	499,378	419,782	407,479	351,605
	(2) 外来収益	203,633	184,395	203,633	167,139	163,832	160,245
	(3) その他医業収益	28,662	20,480	28,662	22,142	21,474	20,709
	(4) 他会計負担金	83,586	62,185	83,586	64,132	62,539	62,539
2	医業費用	909,601	901,201	901,987	888,398	918,631	878,613
	(1) 給与費	503,524	487,110	503,524	480,209	507,279	482,243
	(2) 材料費	86,395	71,185	86,395	69,853	61,610	57,023
	(3) 経費	249,666	271,641	249,666	267,917	279,816	269,773
	(4) 減価償却費	68,091	64,286	60,477	68,245	65,483	65,479
	(5) 資産減耗費	684	5,936	684	1,260	2,601	2,894
	(6) 研究研修費	1,241	1,043	1,241	914	1,842	1,201
	医業損失／医業利益	△94,342	△198,949	△86,728	△215,203	△263,307	△283,515
3	医業外収益	167,028	198,845	167,429	193,913	211,931	213,165
	(1) 受取利息配当金	21	55	21	59	1,069	1,065
	(2) 他会計補助金	28,942	97,683	28,942	97,941	51,728	51,728
	(3) 補助金	0	0	0	0	0	0
	(4) 負担金交付金	129,279	92,019	129,680	88,484	153,614	153,614
	(5) 長期前受金戻入	0	4,628	0	3,166	2,796	2,820
	(6) その他医業外収益	8,786	4,460	8,786	4,263	2,724	3,938
	(7) 雑収益	0	0	0	0	0	0
4	医業外費用	35,799	49,881	35,117	42,224	46,662	43,562
	(1) 支払利息及び企業債取扱諸費	19,952	20,228	19,270	19,868	19,228	19,173
	(2) 繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前払消費税償却	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999	3,999
	(4) 雑支出	11,848	25,654	11,848	18,357	23,435	20,390
	経常利益／経常損失	36,887	△49,985	45,584	△63,514	△98,038	△113,912
5	特別利益	0	0	0	0	0	0
	(1) その他特別利益	0	0	0	0	0	0
6	特別損失	67	29,728	67	397	850	344
	(1) 過年度損益修正損	67	29,724	67	397	800	344
	(2) その他特別損失	0	4	0	0	50	0
	(3) 臨時損失	0	0	0	0	0	0
	当年度純利益／純損失	36,820	△79,713	45,517	△63,911	△98,888	△114,256
	前年度繰越利益剰余金／欠損金	△59,373	△71,366	△22,553	△148,179	△212,090	△212,090
	その他未処分利益剰余金変動額		2,900				
	当年度未処分利益剰余金／未処理欠損金	△22,553	△148,179	22,964	△212,090	△310,978	△326,346

※端数については、四捨五入のため合計が合わない箇所があります。

※地方公営企業決算状況調査より。

別紙2 市立3病院経営指標

1 栗原中央病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
①病院機能評価	計画						
	実績		Ver. 6.0認定				
②1日平均入院患者数	計画	213.9人	225.0人	235.0人	240.0人	197.0人	
	実績	217.0人	200.6人	195.4人	189.3人	189.3人	
③1日平均外来患者数	計画	392.0人	450.0人	450.0人	450.0人	375.0人	
	実績	388.8人	388.7人	387.2人	371.4人	364.8人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	59.5%	57.8%	60.7%	61.1%	60.5%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	44.2%	43.5%	52.3%	43.6%	44.3%	
⑥医業収支比率	計画	87.7%	92.4%	93.4%	94.5%	83.6%	
	実績	89.8%	84.8%	83.2%	83.2%	84.6%	
⑦病床利用率	計画	71.3%	75.0%	78.3%	80.0%	65.7%	
	実績	72.3%	66.9%	65.1%	63.1%	63.1%	
内訳	一般病床	計画	71.5%	74.2%	78.1%	80.0%	67.2%
		実績	72.2%	65.9%	64.4%	64.2%	66.3%
	療養病床	計画	70.0%	80.0%	80.0%	80.0%	58.0%
		実績	73.3%	72.9%	69.3%	57.4%	47.1%
⑧ 平均入院単価	計画	35,419円	34,280円	34,280円	34,280円	36,512円	
	実績	34,508円	34,645円	34,635円	35,943円	36,769円	
内訳	一般病床	計画	38,329円	37,455円	37,455円	37,455円	39,957円
		実績	37,307円	37,576円	37,797円	39,445円	39,765円
	療養病床	計画	16,100円	15,632円	15,632円	15,632円	16,554円
		実績	16,594円	17,404円	16,794円	16,354円	15,672円
⑨平均外来単価	計画	9,838円	8,280円	8,280円	8,280円	10,480円	
	実績	9,352円	9,801円	10,291円	10,779円	10,346円	
⑩経常収支比率	計画	96.8%	100.3%	101.1%	102.2%	95.3%	
	実績	98.5%	92.4%	92.3%	92.6%	97.1%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	16.5日	16.2日	18.1日	17.2日	17.5日	

2 若柳病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	99.9人	102.2人	102.2人	102.2人	90.0人	
	実績	97.9人	92.4人	85.5人	89.4人	93.0人	
③1日平均外来患者数	計画	208.0人	218.2人	218.2人	218.2人	197.0人	
	実績	200.1人	204.6人	200.7人	200.2人	196.4人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	42.2%	40.2%	44.3%	43.6%	42.7%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	41.2%	36.2%	40.5%	39.5%	38.0%	
⑥医業収支比率	計画	89.4%	95.8%	95.8%	95.9%	89.2%	
	実績	92.5%	90.1%	84.9%	89.1%	92.9%	
⑦病床利用率	計画	83.3%	85.2%	85.2%	85.2%	75.0%	
	実績	81.6%	77.0%	71.3%	74.6%	77.5%	
内訳	一般病床	計画	81.7%	83.3%	83.3%	83.3%	71.1%
		実績	79.7%	75.5%	67.1%	74.9%	74.6%
	療養病床	計画	88.0%	90.7%	90.7%	90.7%	86.7%
		実績	87.2%	81.6%	83.9%	73.5%	86.1%
⑧ 平均入院単価	計画	26,109円	25,525円	25,525円	25,525円	28,885円	
	実績	25,919円	26,275円	25,490円	26,708円	27,847円	
内訳	一般病床	計画	29,784円	29,140円	29,140円	29,140円	33,546円
		実績	29,730円	30,933円	29,614円	30,268円	32,078円
	療養病床	計画	15,878円	15,557円	15,557円	15,557円	17,411円
		実績	15,469円	13,353円	15,597円	15,822円	16,844円
⑨平均外来単価	計画	8,618円	8,573円	8,573円	8,573円	9,584円	
	実績	8,767円	8,767円	8,786円	9,098円	9,717円	
⑩経常収支比率	計画	94.5%	100.1%	100.1%	100.3%	99.4%	
	実績	97.4%	95.4%	90.8%	94.8%	103.6%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	20.5日	20.8日	19.6日	19.2日	19.9日	

3 栗駒病院の経営指標及び実績

経営指標項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
①病院機能評価	計画						
	実績						
②1日平均入院患者数	計画	59.4人	64.6人	64.6人	64.6人	53.0人	
	実績	59.1人	60.3人	57.5人	55.3人	47.4人	
③1日平均外来患者数	計画	121.5人	134.6人	134.6人	134.6人	96.0人	
	実績	119.9人	114.3人	111.4人	102.6人	94.8人	
④紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	18.6%	25.7%	23.5%	26.3%	18.9%	
⑤逆紹介率	計画	—	—	—	—	—	
	実績	29.4%	15.6%	15.7%	32.3%	15.6%	
⑥医業収支比率	計画	80.5%	89.1%	89.6%	90.4%	71.3%	
	実績	81.9%	86.1%	77.9%	75.8%	67.7%	
⑦病床利用率	計画	79.2%	86.1%	86.1%	86.1%	70.7%	
	実績	78.9%	80.4%	76.6%	73.7%	63.2%	
内訳	一般病床	計画	79.1%	88.4%	88.4%	88.4%	68.9%
		実績	78.0%	79.6%	71.2%	72.2%	58.0%
	療養病床	計画	79.3%	82.7%	82.7%	82.7%	73.3%
		実績	80.1%	81.5%	84.7%	75.9%	70.9%
⑧ 平均入院単価	計画	21,624円	21,179円	21,179円	21,179円	21,064円	
	実績	20,212円	20,940円	20,750円	20,748円	20,329円	
内訳	一般病床	計画	26,557円	24,955円	24,955円	24,955円	25,913円
		実績	24,276円	24,981円	25,381円	25,023円	25,415円
	療養病床	計画	14,245円	15,119円	15,119円	15,119円	14,231円
		実績	14,275円	15,021円	14,914円	14,651円	14,084円
⑨平均外来単価	計画	6,689円	6,175円	6,175円	6,175円	7,023円	
	実績	6,522円	6,801円	6,785円	6,702円	6,959円	
⑩経常収支比率	計画	95.0%	103.3%	103.9%	104.9%	89.8%	
	実績	97.2%	99.5%	94.6%	93.2%	87.6%	
⑪平均在院日数 (一般病床)	計画	—	—	—	—	—	
	実績	17.0日	19.9日	19.0日	19.9日	20.1日	

栗原市立病院経営評価委員会委員

任期：（平成30年7月31日まで）

No	所 属	役職名	氏 名	備 考
1	山形市病院事業	管理者	平 川 秀 紀	○委員長 (山形県)
2	日本医療文化化研究会	主 宰	茨 常 則	○副委員長 (東京都)
3	みやぎ県南中核病院	病院長	内 藤 広 郎	(大河原町)
4	栗原市医師会	議 長	宮城島 堅	(栗原市)
5	石巻赤十字病院	事務部長	後 藤 孝 浩	(石巻市)
6	(公社) 宮城県看護協会	会 長	佃 祥 子	(仙台市)
7	宮城県総務部	市町村課長	伊 藤 正 弘	(仙台市)
8	矢川昌宏公認会計士事務所	代 表	矢 川 昌 宏	(石巻市)
9	栗原市企業連絡協議会	会 長	小 山 信 康	(栗原市)

(敬称略)

栗原市立病院経営評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 栗原市病院事業経営健全化計画（以下「計画」という。）に基づく取組状況、計画の見直し等に関する事項及び市立病院事業の経営全般について評価、検討等を実施し、市立病院事業の経営健全化等を図ることを目的として栗原市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 計画に基づく取組状況、計画の見直し等に関すること。
- (2) 市立病院の経営全般について評価、検討等を実施すること。
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、病院事業管理者が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係者
- (3) その他病院事業管理者が必要と認める者

3 委員の任期は3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、議事に係る関係者又は専門家に対し、出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な書類の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医療局医療管理課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成20年12月 1日から施行する。

平成24年 7月 1日 一部改正

(会議の招集の特例)

2 この告示の施行後、最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、病院事業管理者が招集する。

栗原市病院事業 医療局 医療管理課

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

TEL 0228-21-5631 FAX 0228-21-5632

ホームページ <http://www.kam.or.jp/>

メールアドレス medical@kuriharacity.jp